



①生産者の岩井弥生さん(左)、岩井純子さん(中央)、岩井正義さん(右) ②にんじんの収穫作業の様子 ③広大なにんじん畑 ④コロナ前の産地交流訪問でのにんじん収穫体験の様子。生産者は吉田邦雄さん ⑤生産者の富谷亜喜博さん

千葉県北東・山武市で「無無」にこだわった野菜づくり

次世代に向けた取り組みも

新規就農希望者を確保・育成

今後手間を惜しまず、環境にも配慮したサステナブルな農業を実現できるように進みますので、応援をよろしくお願います。(生産者 富谷亜喜博さん)

現在、秋冬ににんじんは「はまべに」「春にんじん」は「ベーターリッチ」という味の良い品種を中心に栽培。組合員の皆さんに満足いただけるよう、新品種にも挑戦しています。

「無無にんじん」について (農)さんぶ野菜ネットワークは、品種や栽培方法を試行錯誤しながら、化学合成農薬や化学肥料を使用せず、「作る人」にも「食べる人」にも安全で安心なおいしいにんじんを目指して、30年以上も栽培し続けてきました。草は常に「手で取る」。虫や病気もネットやテープを使ったり換気を小まめに行うなど、知恵や工夫でしのいでいます。

環境に配慮して栽培しています



生産者の笠井英さん



今月の産地

(農)さんぶ野菜 ネットワーク



(農)さんぶ野菜ネットワーク

山武市

千葉県

恵まれた農地で、さまざまな野菜を生産

千葉県の東・九十九里平野、県北・北総台地の一部からなる肥沃な土地で、優良な農地と温暖な気候、大消費地に近接するという恵まれた立地条件の下、さまざまな野菜を生産しているのが、(農)さんぶ野菜ネットワークです。東都生協とは1996年ごろから取引をスタート。現在47人の生産者たちが、75haに及ぶ広大な畑で野菜作りを行っています。

野菜の有機栽培に取り組んで30年余り

さんぶの畑では、古くから小麦・落花生・ごぼう・里いも・さつまいもなど優れた輪作体系がありました。しかし、1975年ににんじんの指定産地*になったことからこの輪作体系が崩れ、作物に連作障害が生じるようになります。当初は対策として化学合成農薬なども使用していましたが、生産者の健康に影響が出てきたため、土づくりを見直し、化学合成農薬や化学肥料に頼らない農業へと転換。1988年に有機農業に取り組む組織として(農)さんぶ野菜ネットワークの前身「山武農業協同組合陸岡園芸部・無農薬有機部会」が発足しました。2005年には農事組合法人となり、34周年を迎えます。2000年の「有機農産物の日本農林規格」制定後は、いち早く有機 JAS 認定も受けました。

*国が野菜のうち、特に消費量の多い14品目を「指定野菜」として定め、指定野菜を作ってくれる規模の大きな産地を指定。

(農)さんぶ野菜ネットワーク「5つの理念」

1988年の設立から同産地は、以下の5つを基本理念として環境に優しい農業に取り組んでいます。

- ①化学肥料は使用せず、堆肥および有機質100%肥料を使用する
- ②自然の生態系を保持するために、化学合成農薬は原則として使用しない
- ③作付けする圃場を明確にし、組合に登録する
- ④輪作体系を整えるため、年間5品目以上を栽培する
- ⑤「いのち」に直結した食べ物を供給することを常に意識し、顔の見える生産者・消費者という関係づくりを目指す

有機栽培のたまもの



無無にんじん(洗い)

1月4回 参考価格 278円(税込300円)

「無無」野菜カレンダー

無無サニーレタス	2月~4月	無無里いも	10月~4月
無無レタス	2月~5月	無無ほうれん草	12月~5月
無無かぶ	3月~4月、9月~11月	無無にんじん	12月~7月
無無大根	3月~5月、10月~12月	無無小松菜	通年
無無ブロッコリー	4月~5月、11月~12月	無無みず菜	通年
無無さつまいも	10月~3月		

その他、登録商品「さんぶの「絆」みり野菜セット」は3月受付開始です。ぜひご利用ください。

次世代を担う新規就農者たちも続々と10年以上前から高齢化に伴う担い手の減少が問題となったため、新規就農希望者の確保・育成に力を入れてきました。新規就農希望者を対象とした研修会や農場見学会などを積極的に行った結果、2009年から現在までの新規就農者数は計30人を超え、地域の活性化や遊休農地の解消につながっています。